

道後温泉本館

探検帳



道後温泉本館へようこそ。ほくがみんなを案内するよ。



本館の後は、^{たんけん}道後のまちも探検しよう。

湯のまち道後マップ



ふるさとに
花の山あり
温泉あり
高浜 虚子



1 にきたつの道 (みち)



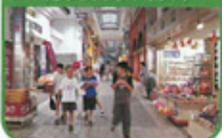
道沿いに古い家が並び、小川が流れる。昔の道後はこんな感じだった?

2 椿の湯 (つばきのゆ)



本館とお湯は同じけど、建物はモダンなふんいき。地元の人に人気。

3 道後商店街 (どうごしょうてんがい)



道後温泉駅から本館へと続く商店街。道後のお土産(おみやげ)を探してみよう。

4 湯神社 (ゆじんじや)



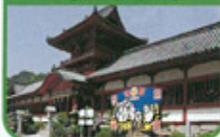
昔から道後の湯が止まるたびに「湯きとう」が行われてきた神社。

5 宝厳寺 (ほうごんじ)



時宗(じしゅう)の開祖(かいそ)一遍上人(いつぺんしやうにん)が生まれたところ。

6 伊佐爾波神社 (いさにわじんじや)



自然石の階段は135段。目のさめるような美しい神殿が迎えてくれるよ。

7 子規記念博物館 (しきねんはくぶつかん)



松山が生んだ俳人・正岡子規(まさおかしき)のすべてを分かりやすく紹介。

8 湯釜菜師 (ゆがまやくし)



まつられているのは石造りの湯がま。奈良時代のものといわれているんだ。

9 道後公園 (どうごこうえん)



中世(ちゆうせい)の城である湯築城跡(ゆづきじょうあと)を発掘(はくつ)、整備。散歩しながら歴史を学ぼう。

10 坊っちゃんカラクリ時計 (ぼくちゃんカラクリどけい)



小説「坊っちゃん」ゆかりのキャラクターが時間(とき)によって30分ごとに演奏(えんそう)をします。

11 足湯 (あしゆ)



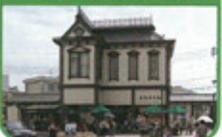
服を着たまま、道後の湯が気軽に楽しめるよ。もちろん無料、年中無休です。

放生園 (ほうじやうえん)



商店街の入口にある広場。昔、この辺りは池だったんだよ。

道後温泉駅 (どうごおんせんえき)



復元(ふくげん)された「坊っちゃん列車」も、ここからスタート。

密着! 道後温泉本館の24時間

朝 6:00

朝の刻太鼓は6つ。太鼓の音とともに、さあ、開館です。



昼 12:00

お昼の刻太鼓は12回打ちます。休憩室ではお茶とお菓子をだしてお接待(せったい)します。



夜 18:00

夕方6時の刻太鼓を打ちます。日没(にちぼつ)前になるとガス燈(がすとう)がともります。



夜 23:00

閉館。清掃が始まります。清掃が終わったらお湯もすべて入れ替え、新しいお湯でお客さまをお迎えします。



●本館は働きもの!

道後温泉本館で働いているのは約100人。皆さんを接待する応接員や源泉(げんせん)とお湯の管理をする汽缶士(きかんし)は2交代で勤務しています。また、お休みは12月の大掃除(おおそうじ)のため一日だけ。それ以外は年中休まず、多くのお客様に喜んでいただけるようがんばっています。

感想をメモしよう。俳句もいいよ。

松山市産業経済部 道後温泉事務所

〒790-0842 松山市道後湯之町5-6 TEL.089-921-5141
ホームページ <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/dogojimu/>

まずは、建物を外から見てみよう。

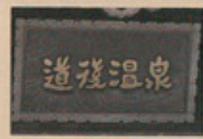


記念さつえいをする人や入浴券を買う人でいつもいっぱい。

ここが入口。
「道後温泉」の額がお出迎え。

本館を正面から見ると、左に三層の神の湯、右手に二層の南棟が見えます。振鷲閣のシラサギも見えるよ。

額(がく)は昭和生まれ。



「道後温泉」の額(がく)が登場(とうじょう)したのは、意外に新しく昭和25年。映画のロケで道後温泉だと分かるものが必要となり、急いで作られたのがはじまり。今は2代目がかざられています。

お宝発見!

「伊佐庭知矢(いざにわかきや)の像」



道後温泉本館をつくり、道後の発展につくした明治時代の偉人(いじん)。

「正面玄関(しょうめんげんかん) 鬼瓦(おにがわら)」



玄関の屋根をかざる湯玉(ゆだま)のかたちの鬼瓦(おにがわら)。大きさ、細工とも大迫力。

「俳句ポスト」



時代を感じさせる木製ポストが、いまの感じが、みんなの一言を入れてね。

●道後温泉本館は、明治27年生まれの日本のお宝。

道後温泉本館は、神の湯(かみのゆ)と霊の湯(たまのゆ)という二つの浴場(よくじょう)と、それぞれの休憩室(きゅうけいしつ)、それに皇室(こうしつ)専用の又新殿(ゆうしんでん)からできています。神の湯の歴史(れきし)がいちばん古く、完成(かんせい)したのは明治27年。又新殿は明治32年にお目見えしました。明治時代の温泉施設が、こんなにきれいに残っているのは日本でここだけ。平成6年には、建築物(けんちくぶつ)としてのすばらしさと保存状態(ぼんぜんじょうたい)のよさから、国の重要文化財(じゅうようぶんかざい)に指定されています。

本館のミニ

●道後温泉本館を建てたのはだれ?

松山藩(まつやまはん)おかげの城大工(しろだいく)だった坂本又八郎(さかもとまたはちろう)という人。お城つくりの技術をいかして、100年以上も愛される建物を造り上げました。

●和洋合体? 不思議な本館の建物。

ぱっと見ると純和風。でも本館の中には洋風建築の技術(ぎじゆつ)もかかっています。当時(たうじ)まだめづらしかったギヤマンの板ガラス(いたがらす)もその一例(いれい)。時代の最先端(さいせんたん)だったんだね。

●なぜ、建物のあちこちにシラサギがいるの?

道後温泉を発見(はっけん)したのがシラサギだという伝説(でんせつ)があるから。振鷲閣(しんりやかく)の屋根(やぐら)上で羽(は)を広げている大きなシラサギをはじめ、本館(ほんかん)のまわりに何羽(なんぼ)も休んでいるので見つけてみよう。



明治時代は、こっちが正面玄関でした!

北側一階にある三つの入口は当時のなごり。向かって左から「一の湯」、「二の湯」、「三の湯」と呼ばれる浴場に続いていました。振鷲閣の上で羽をひろげるシラサギも、ほら北を向いているよ。



お宝発見!

「玉の石」



道後温泉には、大国主命(おおくにぬしのみこと)が病氣(びやうき)の少彦名命(すくなひこなのみこと)を瀧(たに)につけたところ、あつという間に西(にし)へ飛(と)び去(さ)ったという伝説(でんせつ)があります。この石(いし)の上(うへ)で元氣(げんき)になった少彦名命(すくなひこなのみこと)が踊(まわ)ったんだって。



東側(とうがわ)から見た又新殿(ゆうしんでん)の全景(ぜんけい)です。

こちら側(こちがわ)から見(み)えるのは、又新殿(ゆうしんでん)と霊(たま)の湯(ゆ)です。

中央(ちゆうじゆう)の入口(いりぐち)は、霊(たま)の湯(ゆ)の昔(むかし)の玄関(げんかん)。その右側(みぎがわ)、三層(さんじゆう)の屋根(やぐら)がある部分は、皇室(こうしつ)専用の浴室(ゆせん)「又新殿(ゆうしんでん)」の入口(いりぐち)です。明治(めいし)から昭和(しやうわ)まで、皇室(こうしつ)のご入浴(ごにゅうよく)は10回(かい)ありました。

お宝発見!

「又新殿(ゆうしんでん) 玄関(げんかん)」



皇室(こうしつ)方は御成門(おなりもん)から中(ちゆう)へ入(い)りました。龍(りゆう)、鳳凰(ほうおう)、湯玉(ゆだま)と三重(さんじゆう)になった立派(たてば)な屋根瓦(やぐらわ)にも注目(ちゆうもく)!

「檜皮葺(ひわだぶき)の屋根」



本館(ほんかん)の屋根(やぐら)の青い銅板(どうばん)の部分は、「檜皮葺(ひわだぶき)」だったところ。又新殿(ゆうしんでん)にはその一部(いぶ)が残(のこ)っています。

お宝発見!

「ガス燈(がすとう)」



まわり(まわり)にあるガス燈(がすとう)はぜんぶで7本(ほん)。本館(ほんかん)100周年(しゆしん)を記念(きねん)して立て(たて)られました。



感想(かんじよう)をメモしよう。俳句(はいく)もいいね。
